

二十二日付の本紙の記事によると、北部の部瀬名で百二十億円を投じて第三セクター方式による県内最大規模を誇るリゾートホテルの着工が同日付で始まったそうだが、県内にはそれだけでなく超一流と呼ばれるリゾートホテルが戦国時代の群雄割拠のような激しい生存競争を繰り広げている。



高良 守

まだ抜け出せないのかは定かではないが、リゾートの本質に気づいていないのではなからうか。

果たして、リゾートとはハード（ハコ）の外観やそのハコに費やした金額や規模の問題なのだろうか。リゾートとは①長期滞在型の空間であり②レクリエーションや日常生活に適した豊かな自然環境に恵まれ③繰り返し訪れる場所であり、その

しかし、県内にあるリゾート施設は周知のようには、その施設内における物価・宿泊代・施設使用料が高く、滞在日数も二三日というのが現状である。また、現在存在

の沖縄の実情を全く無視しているように見える。さらに、円高の影響で海外へ流出する観光客をき止め、沖縄へと引っ張ってこるための手段やアピールの内容は至って乏

同じような設備や施設で地域性豊かなリゾート開発を行っていないように思える。沖縄の素晴らし「空間」＝「自然」を壊してまでハコをつくるのは反対であり、その代

沖縄に真のリゾートを

高齢化社会を見据えて

することによってその地域の人たちと顔見知りになり、そこを第二の故郷と感じさせることと、私自身確信している。

もちろん、そのためには「低価格」が前提である。代

するそれらはどこに行ってもテニスコート・ゲームセンター・ゴルフコースといった若者向けのハードスポーツタイプの施設の整備を重点的に

しいように思える。以上のことから分かるように、リゾート地と呼ばれる施設やその地域は至って「リゾート金太郎あめ」どこを切っても同じ顔が出てくるあめ

賃は決して安いわけではない。どんなに優れた地域特産品をつくっても、それが買手の好みに合わないければ売れないことや、各地域が同じようなモノをつくり同じような観光資源をアピールすれば、地域間競争の結果最も優れた産物や観光だけがと

（那覇市高良二ノ三ノ七）
投稿